

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会

炭鉱遺産活用の基本構想(案)がまとまりました

炭鉱遺産の継承と活用については、赤平市しごと・ひと・まち創生総合戦略の中で重点施策として位置づけられています。赤平市では、国内でも貴重な歴史的建造物・資料として評価されている炭鉱遺産を保存・継承し、幅広く活用するため、炭鉱遺産公園や炭鉱資料館の一体的な整備について検討しています。

平成28年7月、炭鉱遺産の研究をしている大学教授や民間ガイドなどの有識者、行政関係者によって、赤平市炭鉱遺産活用検討協議会が発足しました。協議会では国のエネルギーを支える、産業遺産としてどのように未来へ継承し、市内外の多くの皆さんに見ていただくか、集う場とすることができるとともに、計8回にわたる協議の結果、1月31日(火)に炭鉱遺産活用の基本構想(案)がとりまとめられました。

赤平市ではこの基本構想(案)をもとに、市民の皆さんから意見をうかがいながら基本構想を完成させたいと考えています。

【ゾーニング・将来イメージ図】



雑木を伐採して
景観を向上

坑口浴場ゾーン

坑口浴場

既設駐車場

既設駐車場

新設駐車場

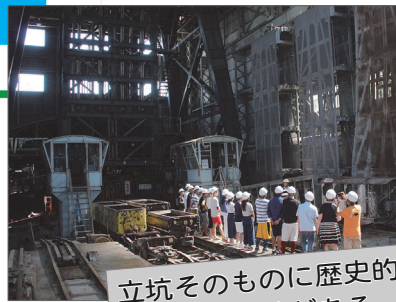
旧事務所

立坑ゾーン

至 歌志内市

立坑

ガイダンス
施設【新設】



線路の記憶ゾーン

炭鉱施設の森ゾーン

【整備プログラム(予定)】

	短期(1~5年)	▶	中期(6~10年)	▶	長期(11~20年)
立坑やぐら ※	劣化停止補修(応急的)	▶	機能向上修繕	▶	⇩事務所と一体的に運用
旧事務所	収蔵庫(一部公開)	▶	(活用方策の検討)	▶	資料館として公開
【新】ガイダンス施設	小規模・速成建築	▶	立坑と一体的に活用	▶	⇩事務所と一体的に運用
自走榨工場	現地での保存・公開	▶		▶	立坑付近へ移設・集約
坑口浴場 ※	保存的措置・一部公開	▶	(活用方策の検討)	▶	検討結果に基づいて活用
土地	最低限の動線確保・植栽	▶	ズリ山側園地との連絡	▶	公園的機能整備

※立坑やぐら・坑口浴場などは、短期・中期での文化財指定・登録を目指し、調査研究に取り組みます。

【基本構想(案)の概要】

立坑周辺の将来目指す姿を形にするため、整備を進める際に考えるべき基本的な方針は次のとおりとします。

- **段階的な整備を行います**
 想定される最終形をイメージしつつ、財政状況や財源確保を見極めながら、必要な部分から整備していきます。
 一気に大きな整備を行うのではなく、有利な財源の活用や最終形の修正を柔軟に検討しながら整備を行います。
- **今ある施設や空間を最大限活用します**
 立坑自体が圧倒的迫力のある展示物で、それ自体に歴史的・文化財的価値があります。
 旧住友赤平小の資料を移設し、一体的な整備を行います。
- **メリハリのある一体的な整備を行います**
 駅裏を一体的に捉えます。
 立坑側は遺産としての価値を前面に押し出してしっかり管理していきます。
 ズリ山側は市内外の皆さんが憩える場など、幅広く検討して整備します。
- **市民参加をお願いします**
 建物や周辺整備などの最低限必要な基盤づくりは行政が行い、ガイドや草刈・植栽など市民や企業が参加できる部分は協力をお願いしていきます。
- **広域的な機能分担を考えます**
 赤平で完結するのではなく、広域的に見せる考え方も必要です。近隣の炭鉱資料との重複を避け、赤平固有の展示に集中することで、余分な費用負担を抑えます。

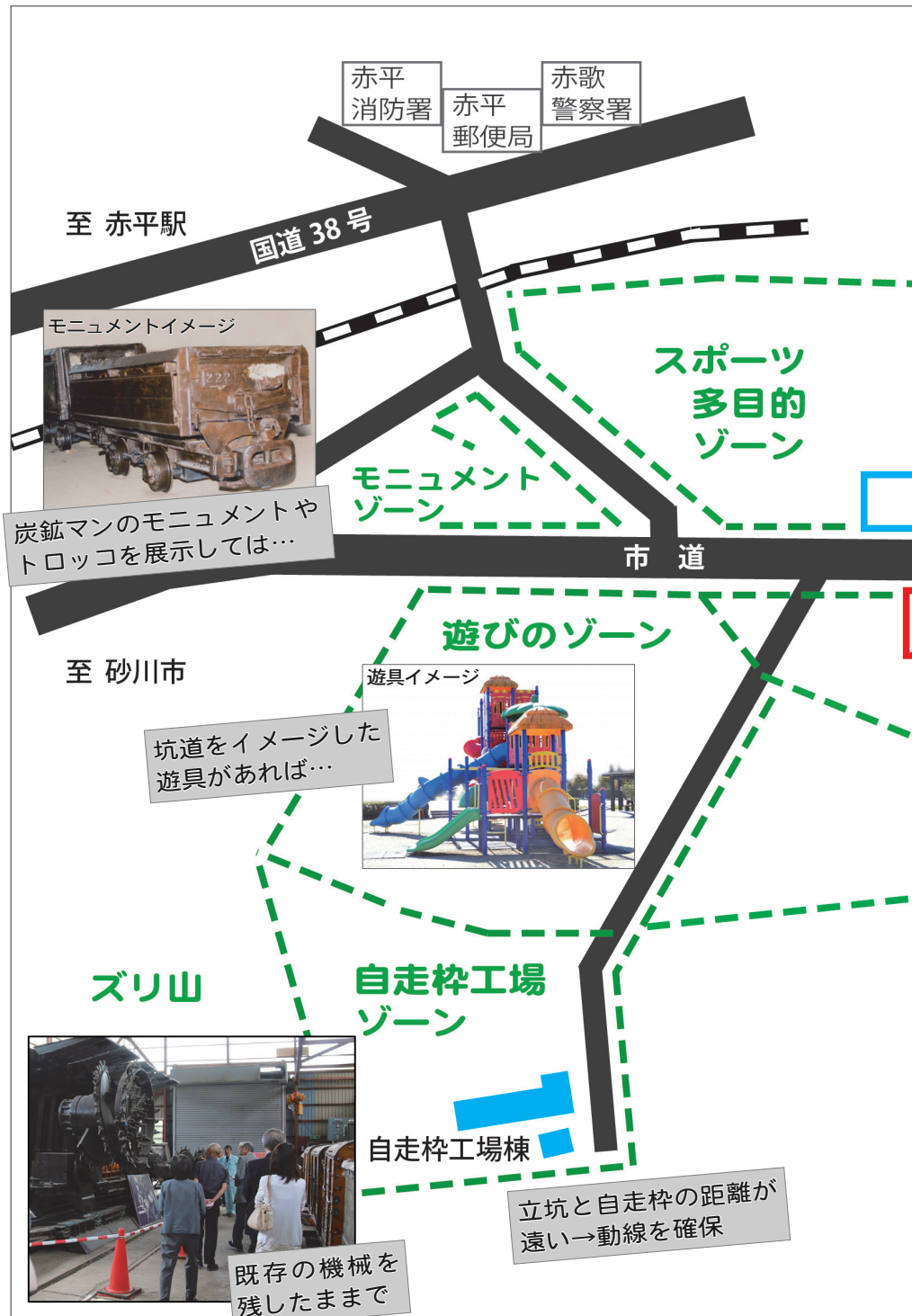
※文化財指定の手続きを進めるなど、炭鉱遺産の価値を高めていきます。

※事業を行うことが目的にならないように、常に上記の基本的な考え方に立ち返って検証していきます。

2、3ページでは基本構想(案)の概要について、4ページでは「ガイドンス施設」の整備に関する国からの財源や、3月9日(木)の「炭鉱遺産活用に関する市民説明会」についてご案内します。説明会では構想の説明と、皆さんからの疑問点・ご意見についてお話をうかがいたいと思っております。多くの皆さんの参加をお待ちしています。



図面を囲みながら協議を重ねました。



炭鉱遺産公園 ガイドンス施設建設を検討しています

これまでガイドツアーやフットパスなどで炭鉱遺産の活用が知られ、市では一般の方から問合せを受けることがあります。しかし残念ながらいつでも見学できる状態ではありません。また、旧住友赤平小学校にある炭鉱資料館は休館状態で、貴重な資料が眠ったままとなっています。

赤平市では国の補正予算に基づく交付金(地方創生拠点整備交付金)を財源として、資料館の資料を立坑周辺に移し、ガイド受付や資料展示を行うガイドンス施設の建設を検討しています。まずは資料の常設展示で炭鉱遺産を知ってもらい、前ページの構想の具体化を進めていきたいと考えています。

ガイドンス施設建設の費用と財源

●概算費用(支出)

▷ガイドンス施設と
新設駐車場(一部)の整備 2億5,580万円

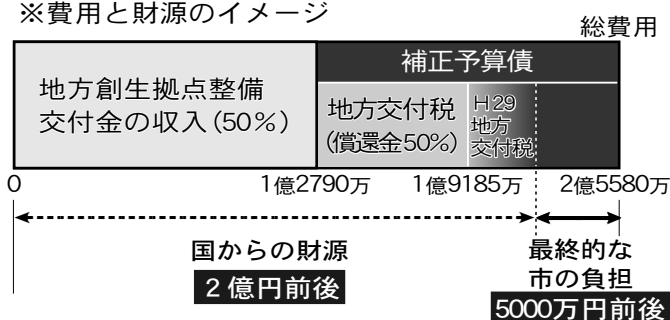
●国からの財源(収入)

▷地方創生拠点整備交付金 1億2,790万円
▷補正予算債の償還にかかる
地方交付税交付金 6,395万円以上

建設費用の50%(半分)が国からの交付金でまかなわれます。

あとの50%(半分)は市が補正予算債という起債(借金)を借りて支払いますが、毎年、元利償還金(返済金)の50%分は地方交付税として国から市に交付されます。残りの一部も平成29年度の地方交付税が交付される予定です。国から入るお金は合計で2億円前後が見込まれるため、市の最終的な負担は大幅に軽減されます。

※費用と財源のイメージ



平成28年12月市議会での補正予算

●歳出補正予算(支出)

▷ガイドンス施設実施設計委託料 1,080万円
▷立坑櫓等調査業務委託料 432万円

●予算化の経緯

赤平市では昨年12月、ガイドンス施設の設計委託料と、立坑やぐらなどの文化財化に向けた調査業務委託料を予算化し、市議会で議決を受けました。

ガイドンス施設は炭鉱遺産活用の核となる建物です。市は総合戦略の中で施設の整備を進めることとしていますが、施設建設は大きな支出を伴う事業です。

こうした中、国は来年度までに整備する地方創生事業に対し、今年度限定で「地方創生拠点整備交付金」を交付することとしました。建物の建設ができる交付金は種類が少なく、この交付金は自治体にとって大きな財源となるものです。今回、赤平市では、国からの有利な財源を活用し、将来的な市の財政負担を減らせるものと考え、建設を進めることとしました。交付金の申請にあたっては、期限が1月中であったことから、早急な予算化が必要となりました。

以上のことから、炭鉱遺産活用検討協議会での協議が続いていた中でしたが、昨年12月に交付金事業の予算づけを行いました。

炭鉱遺産活用 に関する 市民説明会

3月9日(木) 午後6時から
会場：東公民館

- 基調講演 北海道大学名誉教授 角 幸博 氏
テーマ:「産業遺産は地域の宝」
歴史的建造物や文化財を研究されている角名誉教授に赤平の炭鉱遺産などについてお話しいただきます。
- 基本構想(案)・施設整備などについての説明
- 質疑・意見交換

■問合せ 企画調整係 ☎ 32-1834